

YMFG

アジアニュース

2021 年 1 月

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
【現地駐在】TMB 銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)
HD 銀行(ベトナム・ホーチミン)、弁護士法人ベトナム明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス



【青島支店】

タイトル

中国入国における隔離とアフターコロナへの動き

1. はじめに

筆者は山口銀行青島支店の日本人駐在員です。2020 年 2 月、新型コロナウイルスの影響により日本へ緊急帰国していましたが、2020 年 11 月、約 10 カ月ぶりに現地へ戻ることが出来ました。

再入国までの煩雑な手続きと 2 週間の隔離のあとに見えてきた中国の今の光景は、新規感染者の発生を国の最優先政策として抑え込み、以前には無かった変化を感じる事が出来る新鮮なものでした。今回はその体験や現状をお伝えすることでこれからのビジネスのご参考になったら幸いです。

2. 中国渡航から強制隔離へ

現在、日中間の往来は非常に難しく、外国人が中国に入国するには有効な居留許可などがない場合、「招聘状」という中国側の許可が必要ですが、この招聘状が実に難題で、取得までかなりの時間と労力が必要です。聞くところによれば、短期ビジネス出張を容易にするとして 11 月よりスタートした「ビジネストラック」も、実際の運用では招聘状の取得において難易度が高く、また入国出来たとしても事前の計画に基づいて第三者との接触が制限されるほか、専用車の手配や世話係の手配など難しい要件が求められるため、有効には機能していないようです。

私達の場合、3 カ月以上の手続き期間を経て招聘状やビザが発行され、ようやく渡航可能となりましたが、航空チケットの確保には苦労したほか、渡航直前に PCR に加えて抗体検査の陰性証明も準備する必要が発生したため、最後までドタバタとすることになりました。

週 1 便の成田→青島便を利用し、ようやく青島空港へ着いたところで、白の防護服を身に纏った多くのスタッフが飛行機に乗り込み、隔離へのステップが始まります。

書類や荷物の検査、健康状態の申告、PCR に抗体検査など物々しい雰囲気の中で約 2 時間の手続きを経て、行先も告げられないバスへ乗せられます。車中では皆が現在地を GPS で確認しながら、「どこに向かっているのだろう」とこれから待ち受ける 2 週間の生活へ想像を膨らませていきます。

隔離生活のホテルや場所は各地方によって異なりますが、青島の場合は週替わりの輪番制で市内各地域が担当し、私達の場合は「市北区」が担当。築 50 年以上のホテルへ収容されました。強制隔離のホテルになる場合は、多くの場合ほかの顧客が利用できなくなるため、基本的にはあまり人気のないホテルが採用されているようです。ただし、大連や広州など外国人向けにある程度のレベルを確保した地域もあるほか、青島でも 12 月からは外国人向けにリゾートホテルが隔離ホテルとして採用され始めました。

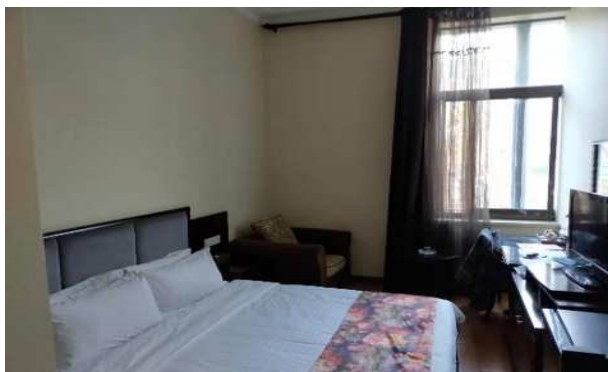
チェックインの際も約 2 時間の手続きがあったのですが、その際には今身に着けているマスクを廃棄され、当局支給のマスクに替えられました。実は私はユニクロの洗えるマスクをしていたので「これは使い捨てではないのですが」と抵抗したのですが駄目でした。



「ホテルへのチェックインの様子」

ホテルの部屋は狭いうえに古く、窓も閉まらずに寒くて過酷な環境でしたが、会社のスタッフを通じて交渉したところ、広い部屋に替えてくれました。

隔離生活は常時監視カメラにより監視されており、外出は当然禁止。毎日決まった時間に部屋の前の椅子にお弁当が置かれるほか、出前やルームサービス、外部からの差し入れが認められる場合もあります。隔離されるホテルによってその対応は大きく変わるのですが、私達の場合は非常に運が悪く、全て禁止されて水とコーラのみ個別にホテルから買うことが出来ました。



「隔離部屋」

他にも、「洗濯が手洗い」、「シーツやタオルの交換がない」、「禁酒禁煙」など厳しい生活を余儀なくされるのですが、一番の苦痛は食事でした。実は筆者は 5 年以上中国にて生活しており、ローカル料理は大丈夫だと思い込んでいたのですが、毎回同じ味付けのローカル弁当にはすっかり参ってしまいました。最後は持参した日本のカップ麺も底をつき、持参した日本の調味料で味を変えながらしのぎました。



「ある日の夕食」



「ある日の朝食」

また、今回の渡航では隔離期間を含めて 4 回の PCR、3 回の抗体検査をしたのですが、中国側で行われた 4 回の PCR、2 回の抗体検査費用は無料でした。最後の検査は隔離解除の前日に行われるのですが、「陽性になりませんように」と祈るような気持ちで最後の夜を過ごしたのをよく覚えています。

3. 中国のアフターコロナ

さて、無事に隔離解除され元の生活へ戻りましたが、その変化や日本との違いにも驚きました。10 月中旬、青島では数日間で約 1,000 万人の PCR を実施したのですが、その結果「もう青島にコロナはいないから大丈夫だよ」と話す人が多くいたことです。ここはもう安全だ、安心して経済活動を行いなさいという政治のメッセージを強く感じることが出来ました。

ただし、各地で局地的にクラスターが発生した場合は「貴方は先週〇〇に行きましたね。すぐに PCR を受けなさい」と当局から電話を受けるケースもあるなど徹底した行動管理もあります。

飲食店の中には新型コロナウイルスの影響により日本人駐在員が減少し、寂れて閉店に追い込まれてしまった日本料理店がある一方で、一般の中国人客取り込みに成功したお店も出て来ていました。

筆者の知人である日本人経営者によると、彼の経営する日本式焼肉店の来店客における中国人の割合は今や 90% 以上。1 年前の開店時には 50% 程度だったといいます。また、その中国人客は海外旅行にでも行っているような感覚で高級な食材をポンポン注文するようになってきたのも特徴の 1 つであり、売上や利益も当初想定していたレベルを遥かに上回っているそうです。彼らはとにかく目立つものが好きで、出てくる料理をすぐに SNS へアップします。また、注文の仕方にも特徴があります。焼肉のメニューではとにかく目立つものを注文し、焼肉のあとにすき焼きを注文する人が多いそうです。日本人の感覚では「焼肉」と「すき焼き」は別の食べ物で同時に食べることはあまり見かけないと思います。



「看板メニュー」



「すき焼き」

もちろん、全ての日本料理店に中国人が溢れているわけではなく、ネットを使った宣伝戦略が優れていたり、味が良かったり、立地が良かったり、それぞれに繁盛店には繁盛する理由があります。しかし、海外旅行に行けない代わりに日本、韓国、タイ、ベトナムなど中国人が海外旅行によく行っていた国の料理店に行列が出来ているという話もあり、新たなお店も出来ていました。



「繁華街に出来ていた柴犬カフェ」

4. おわりに

新型コロナウイルスの影響はまだまだ続く見込みであり、日本をはじめ世界に大きな影響を与えていることは間違いありません。しかし、中国ではいち早くウイルスの影響を抑え込み、アフターコロナに向けて着々と準備を進めているように感じます。世界が正常化した後も、中国国内で消費を取り込めるようになれば、以前のようにインバウンドで溢れかえる日本の観光地の姿も無いかもしれません。反対に、海外志向で裾野の広がった約13億人を抱える市場では日本企業に大きなチャンスが生まれる可能性もあるでしょう。

山口銀行青島支店では皆さまの中国向けビジネス展開における様々なお手伝いを承っております。お気軽にお取引の営業店や山口フィナンシャルグループ海外戦略部へお問い合わせください。ぜひ新たなビジネス展開として「海外への展開」を一緒に考えていきましょう。

(山口銀行青島支店 藤井 謙治)

【画像】

全て筆者撮影